

実習の事前・事後指導に関する研究(Ⅷ)

－責任実習における導入の問題と課題 その2－

斉 藤 葉 子 幼児教育科
大 木 みどり 幼児教育科

(2011年10月1日受理)

〔要 約〕

本研究では、「導入の模擬保育」の試験の授業記録及び「教育実習Ⅱ」における責任実習のアンケート調査をもとに、その体験と実践の振り返りから、学生自身が活動への導入において、どのようなことを困難と感じ、課題と考えているかを検討した。

また、保育実習Ⅱにおける責任実習のアンケート調査結果との比較から、学生の「導入」についての捉え方や意識の変化を探った。

結果は以下の通りである。

1. 「導入の模擬保育」の活動体験は、保育実践における「言葉遣い」・「見本の提示」・「幼児への対応」・「活動の進め方・展開」等、導入の問題をより具体的に捉え、実習に取り組むための事前学習の動機付けになったと思われる。
2. 教育実習Ⅱのアンケート調査結果と保育実習Ⅱの結果との比較において、下記の点についての気づきや認識の深まりが見られた。
 - ・各テーマにおける具体的な活動内容の多様化
 - ・多様で創造的な導入方法と進め方の工夫
 - ・困難に感じたことと課題の変化
 - ・保育活動における導入の重要性

Ⅰ. はじめに

筆者らは「実習の事前・事後指導に関する研究Ⅶ」^{註1)}において、責任実習における「導入」に注目し、アンケート調査を行った。その結果、学生は保育実践における導入の意味について十分に理解できていない様子が見え、導入としての手遊びや見本の提示、絵本・紙芝居を読むことを、主活動とどのように関連付けていけばいいのかについて、困難に感じている。同時に、学生は導入の内容や方法についてどのように組み立てて、実践していけばいいのかについても、保育実践における自分の課題として捉えていた。

そこで、これらの課題を解決するための事前学習の一つの取り組みとして、「導入の模擬保育」を実践活動と試験の形で実施した。

本研究では、「導入の模擬保育」の試験の授業記録及び教育実習Ⅱにおける責任実習のアンケート調査をもとに、その体験と実践の振り返りから活動の導入について、学生自身がどのようなことを困難と感じ、課題と考えているのかについて検討する。更に、「保育実

習Ⅱ」の責任実習のアンケート調査結果との比較から、学生の「導入」についての捉え方や学生の意識の変化について探っていく。

Ⅱ. 目的・方法

本研究の目的は以下の問題を明らかにすることである。

1. 「導入の模擬保育」における実践活動と試験を実施し、その記録をもとに「導入の模擬保育」の事前学習としての役割を探る。
2. 「教育実習Ⅱにおける責任実習の導入」に関するアンケート調査及び「保育実習Ⅱの責任実習の導入」と比較することにより学生の導入における捉え方や意識の変化を探る。

上記の目的のために、以下の手続きを行う。

- (1)対象者—本学平成22年度2年次学生99名(在籍数)、回答数90名(回収率90.9%)
- (2)期日—2010年(平成22年)7月30日

(3)手続き

①「導入の模擬保育」の試験及び実践記録の考察

②教育実習Ⅱにおける「導入に関するアンケート」調査の実施

用紙（別紙参照）を授業時間に配布し、回収。記名方式

- ・説明、言葉かけ、幼児の興味を引く言葉かけが難しい。
- ・お話の終わり方をどのようにしたらよいかわからない。
- ・言葉掛けの工夫が必要であった。
- ・思いもよらない回答に対応できず、難しかった。
- ・話を始めるときや話の進め方、声掛けなどが難しかった。
- ・言葉のかけ方が自然にできなかったのも、自然に出来るようになりたい。

Ⅲ. 結果と考察

1. 「導入の模擬保育」について

「導入」は実践において幼児の心をつかみ、活動への糸口や活動に興味を持たせ、活動に取り組んでいく伏線となる役割を果たしていると考えられる。^{注1)} だが、学生は導入の内容や方法についてどのように取り組んだらよいか、困惑している実態が見られる。

まずはじめに、「導入の模擬保育」の実践活動を授業で取り上げ、試験を実施することにより、各自の「責任実習における導入の問題と課題」について考えるきっかけを提示する。

〔授業内容〕

表現Ⅱの授業では、「導入の模擬保育」試験実施までの間に、次のような取り組みを行っている。

- ① 身体表現遊び（人間粘土・人間の輪くぐり）・「まねっこあそび・影遊び」等
- ② 「じゃんけん列車」
- ③ 手遊びと発展・展開遊び
- ④ 新聞紙遊び
- ⑤ 音楽を体で感じて表現（言葉・メッセージ・描画・コラージュ・音・動きの表現）
- ⑥ 物体からの音楽表現遊び 他

〔授業記録内容〕

a. 責任実習のテーマ、b. 導入の内容と方法、c. 困難に感じたこと・課題、d. 他の学生の発表をみでの気づき

(1)導入の模擬保育活動で難しかった点

①言葉づかいに関するもの

- ・幼児にわかりにくい言葉を使ったり、なんと言えよいか迷ってしまう。
- ・突発的な言葉に対応するのが難しく、受け流してしまうことがあったので、臨機応変に対応できるようにならなければならないと思った。
- ・どのように声掛けをしたら楽しさが伝わるのか。
- ・幼児にやる気・好奇心を高めるような言葉掛けをし、分かりやすくすること。
- ・話の進め方。どのように進めるか、構成をしっかりと検討しておく必要があった。
- ・幼児が分かるように、スムーズにルールを説明することができなかった。
- ・自分がルールをきちんと理解していなかったのも、わかりやすく説明できるようにする。
- ・幼児の集中をいかに引き付けるか、話をどのように進めていくか、難しい。

以上が試験記録に見られた「導入の保育で難しかった点」の中の「言葉づかい」に関する内容である。

このように上記の①からは「幼児にわかりにくい言葉をつかってしまった」・「わかりやすく説明できるようにしたい」等、幼児に保育者の意図を伝える言葉づかいがわからず戸惑っている様子がうかがえる。また、「幼児にやる気・好奇心を高めるような言葉かけ」・「幼児の興味を引く言葉かけ」の難しさを訴えているものなどもみられる。

さらに、「突発的な言葉に対応するのが難しく、受け流してしまった」・「幼児の思いもよらない回答への対応ができなかった」等、予想外の幼児の反応に対応できず、臨機応変な対応の難しさを実感したようである。

また、「話の始め方・話の進め方・終わり方・話の構成」・「言葉かけの工夫」・「説明するための内容理解と整理」等、事前に取り組むべき課題について気付いている。

このように、自分や他の学生の発表・参加体験を通して、言葉づかいに関する問題点について具体的に捉えてきている。

②見本等の提示に関するもの

- ・新聞紙の見せ方が難しい
- ・見本を蛇のようにくねくねと見せたり、見ている人の目線に合わせるのができなかった。
- ・制作した作品を見せた後の声掛けをどうするか。
- ・「自然」の理解のために絵本をどう提示するか。
- ・物をどう提示したら子どもたちの興味を引くことができるか。
- ・材料の見せ方やもっと教材を生かした発展例の提示ができればよかった。
- ・新聞紙で野菜を表すのはとてもたいへんだった。物を作って提示する時、表現力を高めるのが困難だった。

以上が「導入の保育で難しかった点」の中の「見本提示」に関するものである。

「見本提示」の仕方については、対象児の興味を引き付け、活動への糸口となるような提示の大切さに気付いている。

また、「提示する側の表現力を高める必要性」にも気づき、新たな課題と捉えている。

このように、「見本の提示」については、困難と考えることが次の課題の発見に繋がり、事前学習の準備

となっている。

③活動の進め方・展開に関するもの

- ・導入は良いがどのように展開させていったらよいか考えればよかった。
- ・話の展開や活動の流れをどうするかが難しい。
- ・活動におけるイメージを膨らませるような音作りが難しい。
- ・活動のアイデアが浮かばなくて悩んだ。
- ・手遊びを発展させてしぐさや動きをさらに発展させるのが難しい。
- ・鬼ごっこを色鬼に変化させて実施しようとしたら、活動の進め方が難しかった。
- ・活動でのストーリー展開をよく考えて、活動が発展するような工夫が出来なかった。
- ・実際の展開と予想していた活動の展開が大きく異なり、面白い結果になったが、戸惑ってしまった。
- ・話や活動をどのように進めるか、構成をもっと練っておけばよかった。
- ・教材を生かした発展例ができればよかった。

以上が「導入の保育で難しかった点」の中の「活動の進め方・展開」に関するものである。

③では、「活動の進め方・展開」について、「アイデアが浮かばなくて悩んだ」・「変化させたとときの活動の進め方が難しかった」等、どのように活動を進めていったらよいか分からず、躓いている様子が見られる。一方、「活動の構成を練っておけばよかった」・「教材を生かした発展例を考える」など、自分で新たな課題を見つけ出している様子も見られた。

このように、「活動の進め方・展開」については、「できない」・「わからない」・「難しい」という段階の学生と、さらに新しい取り組みに気付く学生が見られた。

④幼児への対応に関するもの

- ・反応してくれる幼児にばかり目が行き、全体を見ることができない。
- ・幼児のペースを掴んで対応することや、その場の雰囲気に合わせて関わるのが難しい。
- ・突発的な行動に対応するのが難しい。
- ・幼児が活動内容を理解しやすく説明をして関わるのが難しい。
- ・幼児の前で自信を持って対応できなかった
- ・堂々と関わる事が出来なかった。
- ・スムーズにルールを説明することができなかった。
- ・見ている幼児の目線に合わせて進めるのができなかった。
- ・きちんとルールを考えて、幼児にわかりやすく教えることができなかった。
- ・頭の中では活動内容と幼児の行動について予測してから実践したのだが、違う結果になってしまった。
- ・その時のノリで話や活動を行ってしまったが、もう少し考えてすればよかった。
- ・言葉のかけ方や関わり方が自然に出来なかったので自然にできるようになりたい。

以上が「導入の保育で難しかった点」の中の「幼児

への対応」に関するものである。

④では、「幼児への対応」について、「突発的な行動に対する対応」・「幼児の目線に合わせて進めることができなかった」など、幼児の行動に対して臨機応変に受け止めて対応することの難しさや、幼児の理解に合わせて対応していく難しさを感じていることがうかがえる。

また、「自信を持って関わる事ができなかった」・「全体を見ることができなかった」「自然な関わりができなかった」等、自分の関わり方における問題点に気付いている様子も見られる。

⑤活動に期待を持たせる導入に関するもの

- ・これからの活動に興味を持たせるような導入のための工夫が必要である。
- ・スタンプ遊びにどのように集中させ、どうしたら興味を持たせることが出来るか。
- ・「海に入ろう」といったときに幼児に喜んで動いてもらえるような声がけをするのが難しい。
- ・イメージを膨らませるような音作りが難しかった。
- ・物を使ってどうやったら幼児の興味を引き付けられるか考えられなかった。
- ・制作物をどのように活用したら良いか分からず悩んだ。
- ・導入からどのように発展させていけばよいか。
- ・活動のストーリーを進めていくのが難しかった。
- ・これからの活動に期待を持たせるような導入の工夫ができなかった。
- ・どのような声掛けをすれば、活動の楽しさなどが伝わるかわからない。

以上が「導入の保育で難しかった点」の中の「活動に期待を持たせる導入に関するもの」である。

⑤では、「活動に興味を持たせるための工夫が必要である」と気付いている様子が見られる。「期待を持たせるような導入の工夫がわからなかった」・「イメージを膨らませるような音作りが難しかった」等、具体的にどのように対応して関わり方をすれば、活動に期待を持たせる導入ができるか分からず悩んでいる様子が見られる。

このように、導入において、内容・方法・進め方・幼児への対応について、模擬における導入の実践活動であるため、まだ体験していない幼児との関わりの中で、幼児の理解が十分でなく、不安に思っている。

(2)他の発表を見ての気付き

①話し方

- ・「目を凝らして」等と、幼児にはわかりにくい言葉を多く使っていたので、わかりやすく話したい。
- ・幼児の好奇心を引き出す言葉掛けができていたので参考にしたいと思う。
- ・興味の引き付けや言葉掛けの仕方がうまくまねしてみたいと思った。

- ・言葉掛けや説明もすぐに伝わったので自分も真似したい。
- ・展開の仕方が工夫されていて、言葉掛けが上手だった。
- ・声を大きくしたり小さくしたりしている人がいて、みんなの興味を引き付けていた。
- ・幼児を引き付けるような工夫をしていたので真似してみたい。

以上が試験記録に見られた「導入の模擬保育で他の発表を見ての気付き」の中の「話し方」に関するものである。

①「話し方」では、「興味の引き付けや言葉掛けの仕方がうまくねしてみたい」「展開の仕方が工夫されていて、言葉掛けが上手だった」等、他の学生の発表における優れた点を認識し、そのことにより具体的にどう話せば幼児に伝わり、興味関心を引き出すことが出来るか、「話し方」の事前学習する機会になっている。

また、「目を凝らして等と幼児にはわかりにくい言葉を多く使っていた」と、他の発表における問題点を確認する機会にもなっており、「話し方」における問題点・注意事項についての認識も深められていく機会になっている。

②保育教材

- ・海の波の音やカラービニールで海を作り、その場の風景を変えてそこに行った気分で活動に入るようにして良いと思った。
- ・「手紙」を使って子どもたちの好奇心をかきたてたり、新聞紙を使う人も多かったのだが、新聞紙から出る音に注目したり、新聞紙で何が作れるかに注目したりと、とても工夫されていたと思う。
- ・新聞紙シアターがとても面白かった。新聞紙を折りながら話が流れていって何ができるか想像しながら楽しめた。自分もやってみたいと思った。
- ・物を見せてから、「どんな音がでるとおもう？」など行けて音を出している人もいて物から音をイメージさせるのも面白いと思った。
- ・初めに音を探しに行こうという導入にしても、物と物を叩いたり、新聞紙で何種類かの音を出して行ったりして、一人一人の違いを感じることができた。
- ・新聞紙を使った導入でも、破いたり、丸めたりして音を出していたり、折り紙のように折って劇にしていたので、日常生活の材料でも教材になることを改めて感じた。
- ・ビニールや新聞紙の使い方や見せ方がわかりやすく、幼児の気持ちを考えた配慮が多く見えた。
- ・ビニール・段ボール・新聞紙をフルに活用していてとてもよかった。
- ・ビニールシートを海に見立てたり色々工夫していて、やってみたいと思う物があり、見ていて面白かった。
- ・新聞紙一つにしてもちぎったり、音を聞かせたり、様々な遊びがあった。
- ・素材一つでいろいろな活動ができる。
- ・楽器や自分で作ったおもちゃなどを使っていてすごいと思った。

- ・同じ新聞紙を使ったものがあつたが、それぞれ表現の仕方や注目している点が違っている。
- ・一つの素材に様々な可能性があることも改めて感じた。
- ・新聞紙を使って物語りをしたり、自ら制作した作品をみる事が出来て楽しかった。
- ・新聞紙でお話した人がいて、新聞紙シアターも面白いと思った。
- ・手遊びを発展させてお話を作ったり、オリジナルのお話をしていて見ていてとても楽しかった。
- ・季節感のある活動を行う人が多く、「海」など導入の仕方に工夫があり、見ていて楽しかった。

以上が試験記録に見られた「導入の模擬保育で他の発表を見ての気付き」の中の「保育教材」に関するものである。

②「保育教材」では、「海の波の音やカラービニールで海を作りその場の風景を変えてそこに行った気分で活動に入る」「一つの素材に様々な可能性がある」「同じ素材を用いていてもそれぞれ表現の仕方や注目している点が違っていてすごい」等、「保育教材」の使い方・活用・工夫に対する様々な視点に気付いている。

また、「手遊びを発展させてお話を新しく作ったり、オリジナルのお話をしていて見ていてとても楽しかった」と、事前に授業で取り上げてきた内容の「手遊びの展開」を保育教材として活用している様子が見られる。

「保育教材」の活かし方については、「導入の模擬保育」の中で、学生が最も多く気付いた内容である。

このように「保育教材」について、素材の様々な使い方・視点・工夫により、同じ素材が魅力的に変化し、保育実践において活用されていく事例を体験できたようである。

③動きの表現

- ・生き物の泳ぎ方や特徴をとらえた動きをしていて、見ていて楽しかった。実際に幼児の前で動きをしたら大喜びだろうと思った。恥ずかしくなくできる場所はすごいと思うし見習っていきたい。
- ・動きがダイナミックで動物になりきっていて、幼児はその表現を見ていてきっと活動に引き込まれると思い、感心した。
- ・表現力がとても豊かで、見ていてとても楽しかった。
- ・魚をただ言葉で言うだけでなく体で大きく表現していてすごいなと思った。
- ・体で表現するという事を課題にして身に付けていきたいと思う。
- ・導入の部分だけだったが、実際に体操をしたりして楽しかった。

以上が試験記録に見られた「導入の模擬保育で他の発表を見ての気付き」の中の「動きの表現」に関するものである。

③「動きの表現」では、「動きがダイナミックで、動物になりきって表現し、幼児も引き込まれる」・「生き物の特徴を捉えた動きをしていて面白い」・「恥ずかしがらないで表現出来ていてすごい」・「表現力がとても豊かで楽しい」等、「動きの表現」の持つ力を実感したようである。さらに、「魚をただ言葉で表現するだけでなく体で大きく表現していてすごい」・「体で表現するということを課題にして身に付けていきたい」と、体で表現することの大切さに気付いてきている様子が見られる。

このように、実際に目の前で学生が動きの表現を用いて導入を提示したことにより、「動きの表現」の持つ働きや、幼児にとって大切な関わりを引き出すきっかけになることに気付く機会になったと思われる。

④引き付け方

- ・導入の仕方はみんなそれぞれで、本当に幼児の前でやるとなったら、もっといい導入の仕方を考えつくるのだろうなと思った。
- ・導入の部分に対してたくさんの種類があってとても勉強になり、参考にしていこうと思った。
- ・同じものを使って導入しようとしている人たちが多くいたのだが、同じものを使用していながらも、どれも異なった導入ばかりだったので見ていてとても楽しく、魅力的なものばかりだった。
- ・他の人の発表を見て、自分にはない、様々なアイデアが多く、同じ道具でも、様々な教材が作れるのだなと改めて感心した。その教材で活動までの流れをきちんと作れていてとてもすごいと思ったし、とても楽しそうにできていたため、楽しかったと思う。
- ・他の人のアイデアを見習って実習に生かしていけたらいいと思う。
- ・自分には思いつかなかった導入の仕方がたくさんあり、この導入だったら絶対に次の活動に幼児が期待を持っているものがたくさんあった。
- ・海の活動で、海や動物に見える準備物を作り、音を出しながら面白く活動できた。目だけではなく、耳で楽しむことがあるととても楽しい活動になるのだと思い、勉強になった。
- ・手遊びを入れたり、目をつぶって音当てゲームをしたり、新聞紙シアターをするなど、個性豊かな発表だと思った。
- ・楽器を使ったり、物を使ったりとこだわりが無く、楽しく導入できるように工夫されていた。
- ・家や海等も作っていてその世界に入りながら聞くことが出来た。
- ・みんな色々な道具を使って様々な導入を考えていたと思う。
- ・水や海をイメージしたものが多く、プール遊び前や水遊びの導入として使える物がたくさんあった。参考の一つとして今回の授業を活かしていきたいと思う。
- ・遊びにつながるように工夫されていて勉強になった。
- ・たくさんの方法で導入することができるのだと改めて感じた。

以上が試験記録に見られた「導入の模擬保育で他の

発表を見ての気付き」の中の「引き付け方」に関するものである。

④「引き付け方」では、「様々なアイデアが多く、同じ道具でも、様々な教材が作れることに改めて感心。その教材で活動までの流れができており、とても楽しめてすごい」・「手遊びを入れたり、目をつぶって音当てゲームをしたり、新聞紙シアターをするなど、個性豊かな発表」・「遊びにつながるように工夫されていて勉強になった」等、他の学生の発表を見ることで、引き付け方の具体的な方法、実践について体験し、より明確に事前の取り組みや準備に向かう動機付けになっていると思われる。

⑤幼児への対応

- ・笑顔で幼児に接していた。
- ・幼児の声や行動を受け止めながら活動を進めていてすごいと思った。
- ・みんなは分かりやすく表現していたので、自分もその点をもっとしっかり取り組みたいと思った。
- ・幼児をお話に巻き込んで先生と一緒に楽しくすることができていてとてもよかった。
- ・自分が幼児だったら、その活動をやってみたくなるような導入もあって、とても興味をそそられた。
- ・幼児に話しかけていることを頭においてわかりやすく話をしたい。
- ・幼児のペースや雰囲気に合わせて。
- ・幼児になってみんなの発表を見る。

以上が試験記録に見られた「導入の模擬保育で他の発表を見ての気付き」の中の「幼児への対応」に関するものである。

⑤「幼児への対応」では、「幼児のペースや雰囲気に合わせる」・「幼児の声や行動を受止めながら活動を進める」・「幼児に話しかけていることを頭においてわかりやすく話をする」等、対象児である幼児の立場に自分を置いて、他の学生の発表を客観的に見ることが出来てきており、以前には気付かなかった「自分が幼児だったら」という視点を認識して活動を振り返っている様子が見られる。

さらに、「幼児のペース」、「雰囲気」、「幼児になって発表をみる」、「幼児の声や行動を受止めながら活動」というように、幼児との「行為のやりとり」や「場の雰囲気作りにおける関わり」等と、より積極的に幼児との対応について考えを深めていこうとしている様子が伺える。

⑥事前準備

- ・導入があつての活動だと思うので、大切にしていきたい。

- ・日々いろいろな物事に取り組んで教材になりそうなものを考えていきたい。
- ・今回他の人の発表を見て学んだことや、参考にしたことを生かしてこれからの実習に臨みたい。
- ・これからの実習で活かさせてもらいたいと思った。
- ・ぜひ参考にして次の実習の際にその導入を実践してみたいと思った。
- ・恥ずかしくなくできるところはすごいと思うし見習っていきたい。
- ・導入の部分に対してたくさんの種類があってとても勉強になり、参考にしていこうと思う。
- ・上手に展開できるようになりたい。
- ・参考の一つとして今回の授業を活かしていきたいと思う。
- ・体で表現するというのを課題にして身に付けていきたいと思う。

以上が試験記録に見られた「導入の模擬保育で他の発表を見ての気付き」の中の「事前準備」に関するものである。

⑥「事前準備」では、「導入があつての活動だと思うので、大切にしていきたい」・「体で表現するというのを課題にして身に付けていきたい」・「上手に展開できるようになりたい」・「いろいろな物事に取り組んで教材になりそうなものを考えていきたい」等、事前準備として導入の大切さに気付き、また、自分自身の関わり方や、表現し方の取り組みについて課題を認識し始めている様子が見える。教材についても事前に研究し、実践のための準備の必要性にも気付いてきている。さらに、展開仕方についても、他の学生の優れた発表や関わり視点を知り、参考にしながら事前学習の取り組みをしっかりとしていこうとする姿勢が感じられる。

2. 教育実習Ⅱにおける「責任実習の導入」について

(1)教育実習Ⅱの責任実習対象児

表1 責任実習の対象児

対象児の年齢	回答数(75)
3歳児	18
4歳児	23
5歳児	30
3歳～5歳児	4

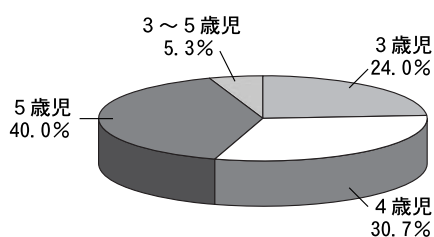


図1 責任実習の対象児

表1及び図1は「教育実習Ⅱ」における責任実習の対象児について表したものである。

これより、回答数75件のうち、多い順に5歳児30件(40.0%)、4歳児23件(30.7%)、3歳児18件(24.0%)となっている。

「保育所実習Ⅱ」においては、1歳から5歳まで幅広い年齢を対象にして責任実習が行われてはいるが、約7割は4歳児・5歳児を対象としていた。「教育実習Ⅱ」においても同様の傾向が見られ、約7割が4・5歳児を対象として責任実習を行っている。これは、幼児とのコミュニケーションが取り易く、活動を円滑に進めることができると捉えられているためと推察される。また、ほとんどの学生にとって、まとめの実習となることから、学生自身もより活動的な内容を計画し、実践したいとの意志が反映されたのではないと思われる。

(2)「教育実習Ⅱ」における責任実習のテーマ

表2 責任実習のテーマ

責任実習の内容	回答数(75)
壁面	3
おもちゃ	6
制作	29
集団遊び	29
その他	8

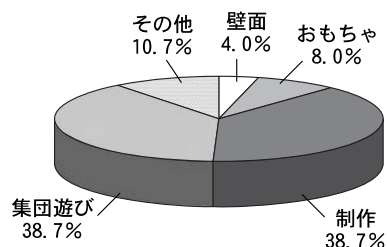


図2 責任実習のテーマ

表2及び図2は「教育実習Ⅱ」における「責任実習のテーマ」について表したものである。

これより、責任実習のテーマとして多いものが「制作」と「集団遊び」で29件(38.7%)と同数となっている。また、おもちゃの制作6件(8.0%)や、壁面制作3件(4.0%)となっており、これらを合わせると、制作活動を責任実習のテーマとしたものは38件(50.7%)で、約5割を占めている。「保育実習Ⅱ」では、「壁面」16.7%であったが、「教育実習Ⅱ」4%と非常に少なくなっている。一方、「集団遊び」が30.0%から38.7%とやや多くっている。

* 保育実習Ⅱの結果は、^(註1) 斉藤葉子、大木みどり「実習の事前・事後指導に関する研究(Ⅶ)―責任実習における導入の問題と課題 その1―」からの引用である。

(3)年齢別責任実習のテーマ

表3及び図3は、年齢別の責任実習のテーマについて表したものである。

表3 年齢別責任実習テーマ

年齢 責任実習テーマ	3歳児 回答数 (18)	4歳児 回答数 (23)	5歳児 回答数 (30)	3～5歳児 回答数 (4)
制作（壁面）	0	1	2	0
制作（おもちゃ）	1	3	2	0
制作	7	7	14	1
集団遊び	7	10	9	3
その他	3	2	3	0

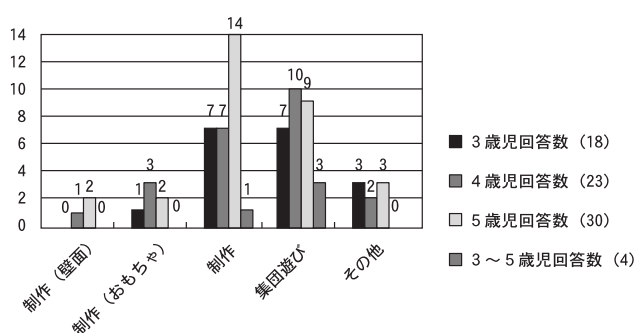


図3 年齢別責任実習の内容

これより、3歳児では、「制作」と「集団遊び」が7件（38.9%）と同数である。4歳児では、「集団遊び」が10件（43.5%）、と多く、次に「制作」7件（30.4%）となっている。5歳児では、「制作」が14件（46.7%）と多く、次に「集団遊び」が9件（30.0%）となっている。また、「壁面」「おもちゃ」については、3歳児は0、1件と少なくなっている。

(4)責任実習の具体的な内容

表4及び図4－1、図4－2は、責任実習の具体的な内容について表したものである。

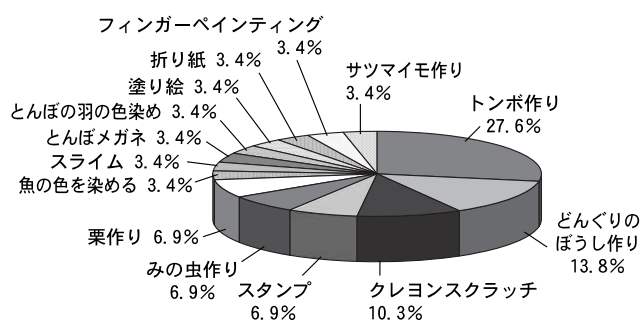


図4－1 責任実習内容：制作

表4 責任実習の具体的な内容

責任実習の内容	回答数 (66)
1 制作（壁面）	3
きのこの壁面	1
絵本の木の壁面	1
壁面	1
2 制作（おもちゃ）	6
マラカス	2
楽器	1
びっくり箱	1
紙相撲	1
紙積み木	1
3 制作	29
トンボ作り	8
どんぐりのぼうし作り	4
クレヨンスクラッチ	3
スタンプ	2
みの虫作り	2
栗作り	2
魚に色を染める	1
スライム	1
とんぼメガネ	1
とんぼの羽の色染め	1
塗り絵	1
折り紙	1
フィンガーペインティング	1
サツマイモ作り	1
4 集団遊び・運動遊び・表現遊び	28
鬼ごっこ（引っ越し、色、等）	5
オオカミさん今何時	4
しっぽ取り	3
新聞紙あそび	3
フルーツバスケット	2
宝さがしゲーム	2
魚釣り	1
赤ずきんちゃんごっこ	1
クイズ	1
ジェスチャー	1
忍者修行ごっこ	1
ボール遊び	1
けん玉	1
歌唱指導（鈴虫の電話）	1
カード遊び	1

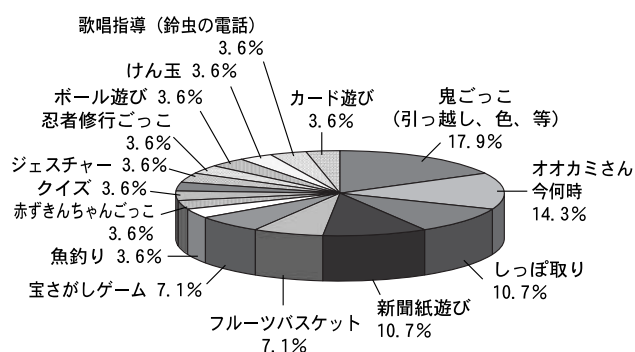


図4-2 責任実習内容：集団遊び・運動遊び・表現遊び等

図4-1より、「制作」29件中最も多かったのは、「とんぼ作り」8件(27.6%)で、次に「ドングリのぼうし作り」4件(13.8%)、「クレヨンスクラッチ」3件(10.3%)となっている。

実習時期が9月中旬であり、季節に合ったものということで、秋をテーマにした活動内容が多くなったものと思われる。「保育実習Ⅱ」は6月に行われたことから、制作活動の内容として、題材として「あじさい・やかたつむり・カエル」を題材とした活動内容が多く見られた。このように、実習の時期により制作活動の題材は当然変化してくるものである。

図4-2より、「集団遊び・運動遊び・表現遊び等」28件中最も多かったのは「鬼ごっこ」5件(17.98%)、「おおかみさん今何時」4件(14.3%)、「しっぽ取り」3件(10.7%)、「新聞紙遊び」3件(10.7%)となっている。運動会シーズンの影響もあるのか、鬼ごっこを始め、走る活動を中心とした、活動量の多い内容が多くなっている。

「保育実習Ⅱ」では「新聞紙遊び」が11件(34%)と最も多かったが、「教育実習Ⅱ」では少なくなっている。

責任実習の具体的な内容の種類については、「保育実習Ⅱ」では、回答数90の内、「制作」の種類が12であったものが14に、また「集団遊び」については、8から15へ増えている。

保育所実習Ⅱでは、授業内容をそのまま責任実習の内容とするものや同じ内容で行うものが多く見られたが、「教育実習Ⅱ」では、対象児の発達や体験の状況などを把握し、学生自身が責任実習の活動内容を考えて行っている結果と推察される。

(5)責任実習における導入の方法

表5及び図5-1、図5-2は責任実習における導入の方法について表したものである。これより、総回答数90件の中で、導入の方法で最も多かったのは、「活動に関する話」で40件(24.4%)、次が「見本や作品の

表5 責任実習の導入の方法

導入の内容	回答数 (複数回答：164)
活動に関連する話	40
見本や作品の提示	37
クイズ	20
手遊び	19
絵本・紙芝居を読む	13
活動に関連する歌を歌う	9
変身・表現活動	8
その他(ペープアート)	6
パネルシアター・新聞紙シアター	5
実体験	4
声掛け	3

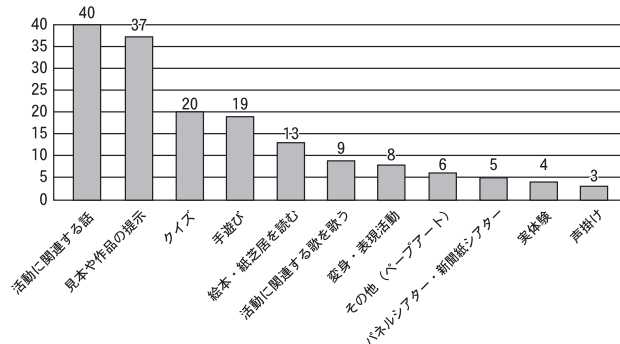


図5-1 責任実習の導入の方法

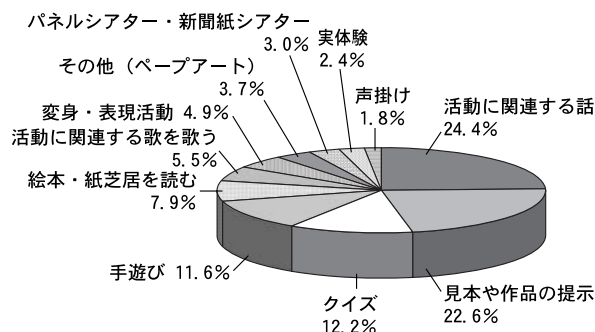


図5-2 責任実習の導入の方法

提示」37件(22.6%)、「クイズ」が20件(12.2%)、「手遊び」19件(11.6%)、「絵本・紙芝居を読む」が13件(7.9%)となっている。

「保育実習Ⅱ」の責任実習の導入では、「見本や作品の提示」が21.5%、「活動に関連する話」17.4%、「手遊び」17.4%、「絵本・紙芝居を読む」13.4%となっており、順位が入れ替わっている。また、「保育実習Ⅱ」で2%だった「クイズ」が、「教育実習Ⅱ」の責任実習の導入では12.2%と多くなっている。

「教育実習Ⅱ」の導入内容についての具体的な記載内容をみると、活動に関連する話において、「リスからの落ち葉に書いた手紙」を準備したり、「オオカミの一

日の生活についての創作話」を聞かせたり、オリジナルの紙芝居を読んだり、学生自身が創作した内容を導入に活かしているものが多く見られた。

これは、幼児の意欲や興味を引き出すため、またスムーズに活動が展開できるようにするために、また、子どもの反応や声を聞き取り、共に楽しみながらストーリーや活動を作り上げていこうとする意識が学生の中により明確になってきた結果と推察される。

クイズが多くなったのも、子ども達の興味や関心を引き出し、子どもに問いかけながら、またコミュニケーションを図りながら、活動に自然に展開しようとする工夫の一つと考えられる。

また、導入については、責任実習66件の複数回答の中で164件の回答があり、一つだけの方法でなく、幾つかの内容を組み合わせて行っていた。

具体的な記載内容をみると、5歳児の「とんぼのめがねのクレヨンスクラッチ」の活動の導入では「①ペープサートを使って②秋に関するクイズ→③創作キャラクター「とんぼのピッカリくん」を登場させる→④絵本「クレヨンのかくれん」を読むからクレヨンスクラッチの活動へと展開していた。また「①手遊び→②夢の創作話し→③夢に出てきた手紙を取り出す→④地図を見せる」から宝探しゲームへと展開している。この他にも、手遊びで集中させたり、楽しい雰囲気を作ったり、次の活動へ展開するために様々な教材の提示やキャラクターを登場させたり、創作した話を聞かせたり、届いたお手紙を読んで聞かせたり、クイズを出して幼児へ問いかけたりと様々な方法、工夫がなされている。単に活動についての説明や絵本・紙芝居を読むだけでなく、幼児の興味やイメージの世界を広げ、意欲を引き出すために、より活動に合わせた創造的な内容を準備し導入を行っていることが分かる。

(6) 幼児の反応

表6及び図6は責任実習導入時の幼児の反応について表したものである。

複数回答102件のうち、最も多いのは「興味を持って行った」で51件（50.0%）、次が「楽しそうにしていた」で32件（31.4%）である。

「保育実習Ⅱ」では、「楽しそうにしていた」が59.1%と最も多く、次が「興味を持って行った」で12.5%であった。導入において幼児の興味や意欲を引き出す様々な方法や工夫を行ったことにより、「楽しそうにしていた」との反応より、より主体的な活動への関わりが促された結果として「興味を持って行った」との反応が得られたものと推察される。

アンケートから具体的な記載内容をみると、「とて

表6 導入時の幼児の反応

幼児の反応	回答数（102）
興味を持って行った	51
楽しそうにしていた	32
集中していた	13
真似して楽しむ	5
何回も行った	1

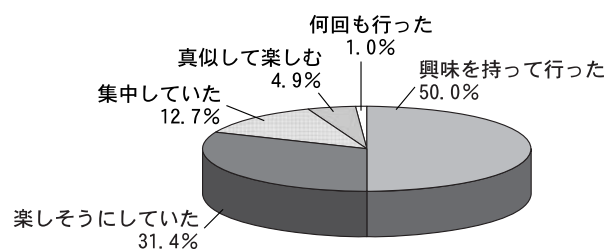


図6 導入時の幼児の反応

も興味を持ってきて活動がし易かった。液体→固体になるのが不思議みたいで、化学の実験のように楽しんでいた」「オリジナルな紙芝居だったので、どんなお話なのかみんなわくわくしながら聞くことができていた」「手遊びを始めた瞬間おしゃべりがなくなり、実習生の手を見ながら真似をしていた。絵本を見たがる幼児がいたり、絵の色や食べ物に大変興味を持っていた」など、幼児の反応は、集中し、活動に興味関心を持ち、活動への期待が引き出されている様子が感じられる。または学生の幼児の反応の捉え方も深まっていることが窺える。

(7) 責任実習導入における工夫

表7及び図7-1、図7-2は責任実習導入の工夫について表したものである。これより、工夫したこととして多く挙げられていることは、「話し方の工夫」30件（21.0%）、「活動の進め方の工夫」29件（20.3%）、「見本・教材の提示の仕方」28件（19.6%）、「活動内容とイメージの連携」26件（18.2%）で、約2割とほぼ同じであった。

表7 責任実習導入における工夫

工夫した内容	回答数（143）
話し方の工夫	30
活動の進め方の工夫	29
見本・教材の提示の仕方	28
活動内容とイメージの連携	26
手遊び	10
絵本・紙芝居	8
実体験事前準備における工夫	6
パネル・ペープサート	3
創作話し	3

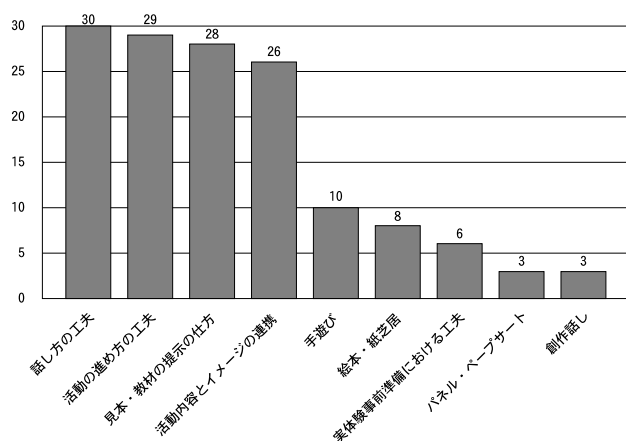


図 7-1 責任実習導入における工夫

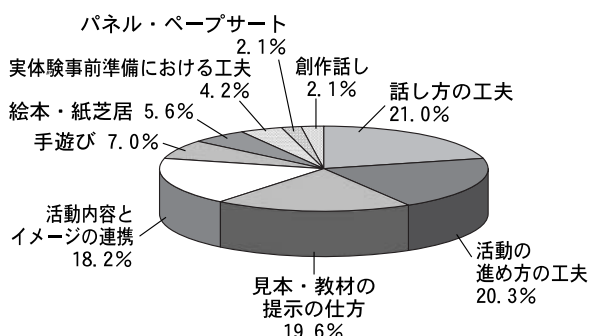


図 7-2 責任実習導入における工夫

具体的な記載内容を見ると「子どもが興味や期待を持てるような声の大きさの工夫、対話しコミュニケーションを図る、導入後の活動に繋がる物を使用する、提示する際裏が見えないようにする」「出来上がったものを見せることで期待を膨らませる（どうやって作る、色のきれいさ）、竹串を魔法の鉛筆に見立て、幼児に夢を与えた」「最初から木の絵を貼るのではなく、「友だちを連れてきたんだ」と言ってから貼りつけることで、子どもの興味が湧くようにした」など、メリハリをつけた声の大きさ、声色の変化、様々な見立てや興味を引く提示、イメージを膨らましながらか活動へと進めていくこと等多様な工夫を行っている。

(8)責任実習の導入で困難に感じたこと

表 8 及び図 8-1、図 8-2 は、責任実習の導入で困難に感じたことについて表したものである。これより、困難に感じた内容として多い順に、「幼児への対応」30件 (31.6%)、「活動への展開」21件 (22.1%)、「集中」「興味・イメージの引き出し」14件 (14.7%) となっている。「保育実習Ⅱ」では、「集中」が最も多く、54.5%であったが、「教育実習Ⅱ」では、実習の経験を重ねたことで、自分自身ある程度余裕を持って幼児の前に立つことができ、手遊びや話し等で幼児を集中

表 8 導入で困難に感じたこと

内 容	回答数 (95)
幼児への対応	30
活動への展開	21
集中	14
興味・イメージの引き出し	14
事前準備	9
時間配分	7

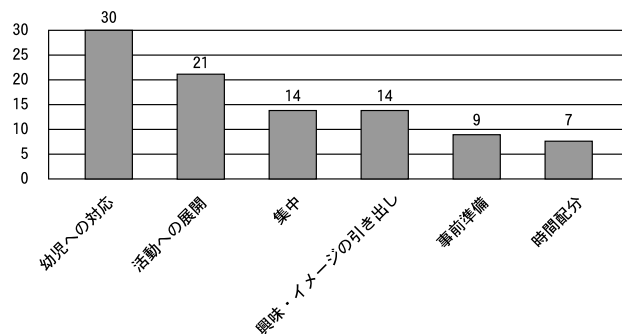


図 8-1 導入で困難に感じたこと

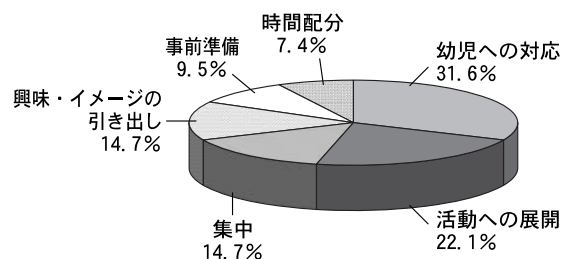


図 8-2 導入で困難に感じたこと

させることができた結果と思われる。一方、「幼児への対応」、「活動への展開」が多くなったのは、導入の方法として多く挙げられていた「活動に関する話」や「クイズ」等、幼児に問いかけ、声を聞き取りながら進めることが多く、即座に対応しなければならない場面が多く、困難に感じたものと思われる。

具体的な記載内容を見ると「どこまでクイズをするのか、どう活動にもっていくのか、考えながらするのが難しかった」「導入はとても面白かったが、本題の活動とうまく繋がらなかった」など、幼児への即座の対応や進め方等で困難に感じているものが見られた。

(9)責任実習の導入における課題

表 9 及び図 9-1、図 9-2 は「導入における課題」について表したものである。

これより、導入の課題として多い順に、「興味の引き方」29件 (29.9%)、「幼児への対応」22件 (22.7%)、「保育教材」12件 (12.4%)、「話し方」11件 (11.3%) となっている。

「保育実習Ⅱ」では、「話し方」が37.0%と最も多く、

表9 導入の課題

内 容	回答数 (91)
興味の引き方	29
幼児への対応	22
保育教材	12
話し方	11
事前準備	8
見本の提示	6
時間配分	4
活動の展開	3
緊張	2

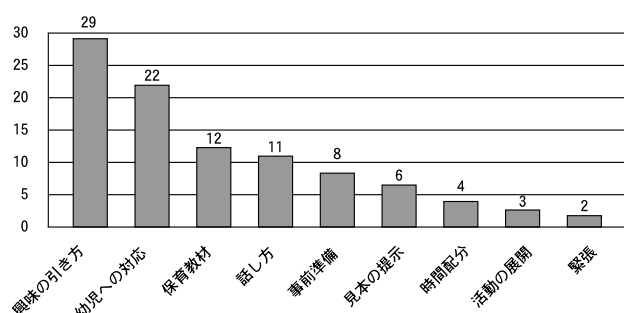


図9-1 導入の課題

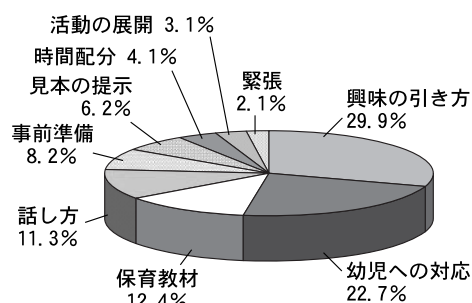


図9-2 導入の課題

次に「幼児への対応」「事前準備」が21.7%であった。

「保育実習Ⅱ」では責任実習は初めての学生がほとんどで、幼児の前に立って幼児を集中させ、活動の導入ではどのような話を、どのようにしたらよいのかについて戸惑いを感じ、課題として挙げられたものと推察される。「養育実習Ⅱ」では、導入について、より積極的に幼児の興味関心を引き付け、幼児とのコミュニケーションを図りながら活動を展開していこうとした結果として、「興味の引き方」、「幼児への対応」が多くなったものと推察される。

具体的な記載内容をみると「幼児を引き付ける手遊びやアイテムをもっと考えていきたい。幼児が先生の話を聞きたくなるような雰囲気作りの工夫を課題にしていきたい」「子どもの反応に対し、もう少し耳を傾ける。内容を工夫する」の内容が挙げられている。

4. 教育実習Ⅱへの導入の模擬保育の実践について

表10 「導入の模擬保育」の活用について

項 目	回答数 (96)
活かすことができた	28
活かすことができなかった	66
その他	2

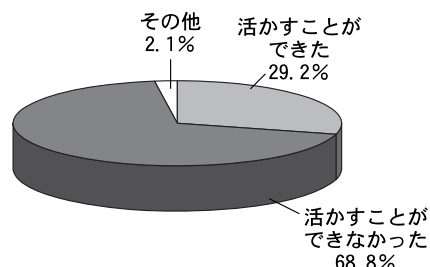


図10 「導入の模擬保育」の活用について

保育内容「表現Ⅱ」に授業で行った「導入の模擬保育」の内容を「教育実習Ⅱ」の保育実践で活かすことができたかについてのアンケート結果について見ていく。

(1) 「導入の模擬保育」の教育実習Ⅱ・Ⅲにおける保育実践への活用

表10及び図10は、授業で行った「導入の模擬保育」の教育実習Ⅱ・Ⅲにおける保育実践への活用について表したものである。

これより、「活かすことができた」とする回答数は28件 (29.2%) で、「活かすことができなかった」は66件 (68.8%) で、約7割が活かすことができなかったと回答している。

(2) 「導入の模擬保育の活用」について

① 「導入の模擬保育」を活かした場面と対象児

表11及び図11は、「導入の模擬保育」を活かしたと回答した32件について、活かした場面と対象児について表したものである。

これより、活かした場面では多い順に「責任実習」が17件 (53.1%)、「部分実習」が12件 (37.5%) となっている。対象児は4歳児が17件 (53.1%)、3歳児が11件 (34.4%) であった。活かした場面は活動への「導入の模擬保育」であるため、責任実習で活かすこと

表11 「導入の模擬保育」を活かした場面と対象児

対象児	活かした場面			
	責任実習 (17)	部分実習 (12)	自由遊び (7)	その他 (3)
2歳児 (1)	1	0	0	0
3歳児 (11)	6	4	1	0
4歳児 (17)	5	7	4	1
5歳児 (6)	3	1	1	1
3歳～5歳児 (4)	2	0	1	1

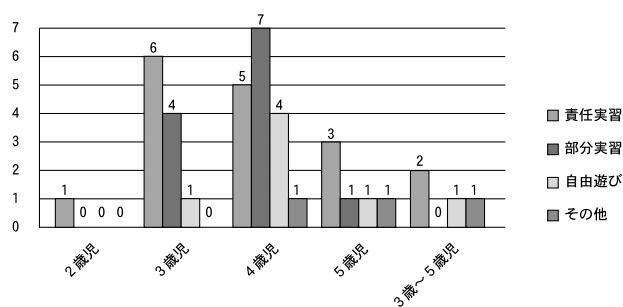


図11 「導入の模擬保育」を活かした場面と対象児

は当然であるが、4歳児では「部分実習で」活かす場面が多いとの回答であった。

また、4歳児は「活かせた」とする件数も多く、授業時の導入の主活動や対象児が4歳児を想定したものが多いことと関係していることが考えられる。

②導入の模擬保育を活かした点

表12及び図12は、「導入の模擬保育」のどの様な点を活かしたかについて表したものである。

表12 導入の模擬保育を活かした点

活かした点	回答数 (32)
手遊び	9
声がけ・話し方	8
保育教材	7
動きの表現	2
進め方	2

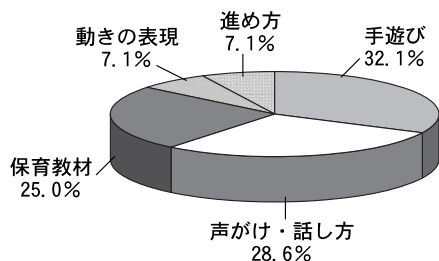


図12 「導入の模擬保育」を活かした点

これより、多い順に「手遊び」9件(32.1%)、「声がけ・話し方」8件(28.6%)、「保育教材」が7件(25%)となっている。

③導入の模擬保育を活かした結果

表13及び図13は「導入の模擬保育」を活かした結果を表したものである。

これより、活かした結果として「活動がスムーズに進んだ」との回答が9件(42.9%)で、次に「集中させることができた」「楽しむことの大切さを学んだ」となっている。また、模擬保育は学生を対象として行っているため、実際の活用時の幼児との反応の違いに戸惑ったとの回答もあった。

表13 「導入の模擬保育」を活かした結果

内 容	回答数 (21)
活動がスムーズに進んだ	9
集中させることができた	4
楽しむことの大切さを学んだ	3
学生と子どもの違い	2
意欲を引き出すことができた	1
子どもの反応を見ることができた	1
良かった	1

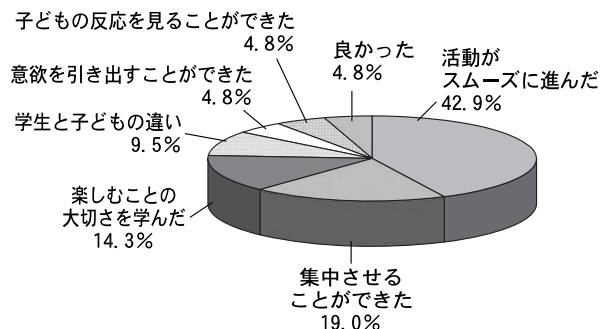


図13 「導入の模擬保育」を活かした結果

表14 「導入の模擬保育」を活かした時の幼児の反応

内 容	回答数 (28)
楽しそうに活動していた	11
興味を持って行った	11
その他	4
集中した	2

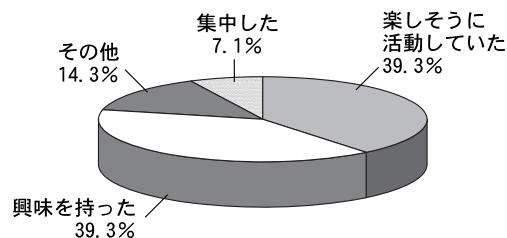


図14 「導入の模擬保育」を活かした時の幼児の反応

④導入の模擬保育における幼児の反応

表14及び図14は、導入の模擬保育を活かした時の幼児の反応について表したものである。幼児の反応としては、「楽しそうにしていた」「興味を持って行った」共に11件(39.3%)である。

「導入の模擬保育」の保育実践に活かした際の幼児の反応は、全体として良い結果が得られている。

⑤導入の模擬保育の実践における工夫

表15及び図15は、「導入の模擬保育」を実践する時の工夫について表したものである。

これより、「導入の模擬保育」を実践する時の工夫については、8項目についての工夫が見られた。

具体的な記載内容をみると「幼児の前で、実際に野

表15 「導入の模擬保育」の実践時の工夫

工夫の内容	回答数 (22)
見本・教材提示の仕方	4
活動の進め方の工夫	4
話し方の工夫	3
手遊び	3
動き	3
活動内容とイメージの連携	2
事前準備における工夫	2
絵本・紙芝居	1

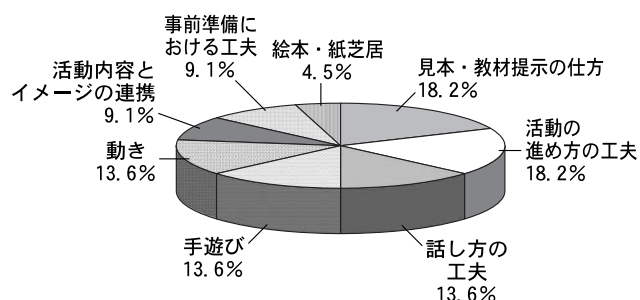


図15 導入の模擬保育の実践時の工夫

表16 導入の模擬保育活用の課題

課 題	回答数 (26)
話し方	6
幼児への対応	6
事前準備	5
引き付け方	4
保育教材	2
時間配分	2
見本提示	1

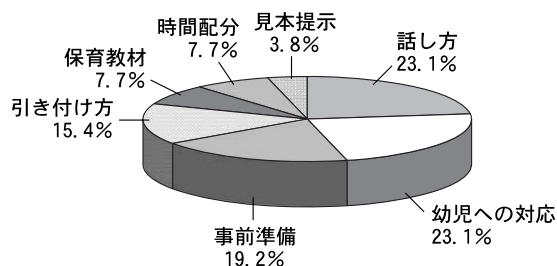


図16 導入の模擬保育活用の課題

菜を切って中の様子を見せ、どんな模様ができるか考えさせた」等、教材の提示の仕方や問いかけ、幼児に考えさせる等、実践時においては様々な工夫がなされている。

⑥導入の模擬保育活用の課題

表16及び図16は、「導入の模擬保育」を保育実践に活かした時の課題について表したものである。

これより、課題として回答した内容は「話し方」1件（3.8%）、「事前準備」5件（19.2%）、

表17 導入の模擬保育を活かせなかった理由

理 由	回答数 (60)
活動の内容とあっていなかった	23
緊張してできなかった	13
模擬実習の対象が異なっていて	4
その他	20

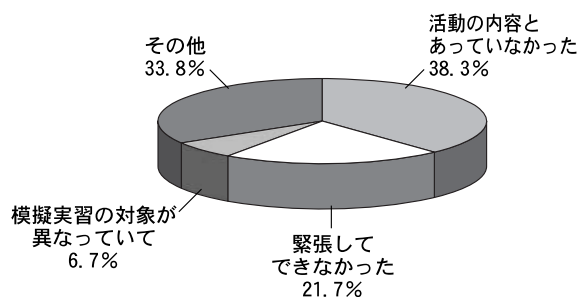


図17 導入の模擬保育を活かせなかった理由

「引き付け方」4件（15.4%）となっている。アンケートの記載内容をみると「一人ひとりの幼児も声にも耳を傾け、消極的な子にも安心して活動に入ることができるように言葉をかける」など、話し方、幼児への対応等、課題として捉えている。

(3)導入の模擬保育を活かすことができなかった理由
表17及び図17は、「導入の模擬保育」を保育実践に活かすことができなかった理由について表したものである。

これより、多い順に「活動の内容とあっていなかった」23件（38.3%）、「緊張してできなかった」13件（21.7%）となっている。アンケートの記載内容として「運動会のシーズンで忙しく、中々時間を取って保育実践をする機会がことがなかった」、「頭の中では分かっているのだが、思い通りに行かなくてパニックになった」など、園側の事情や、自分計画した活動内容と異なっていたり、また緊張して導入をうまく進めることができなかったものと思われる。

(4)事前学習としての導入の模擬保育の効果について
表18及び図18は、事前学習としての「導入の模擬保育」について保育実践における効果について表したものである。

これより、事前学習として「役立った」は、62件（67.4%）で約7割と多い。表18に示したように、実際の保育実践には園の状況や活動内容が異なっていたこと等により、導入の保育実践をそのままの形で活かすことはできなかった。しかし、「導入の模擬保育」

表18 事前学習としての導入模擬保育の効果

項 目	回答数 (92)
事前学習として役立った	62
どちらとも言えない	29
あまり役立たなかった	1

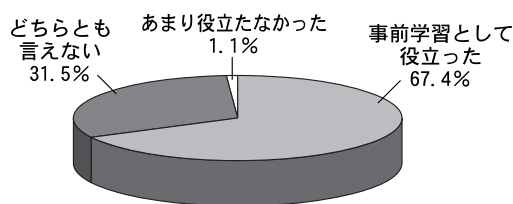


図18 事前学習としての導入模擬保育の効果

の体験を通し、幼児の興味や関心を引き出し、主体的な遊びへと展開していくために、「導入」が果たす役割についての気付きが促された。また、話し方や教材の提示の仕方、興味の引き方、集中のさせ方、表現力等、様々な導入の方法、進め方、工夫等を学ぶことができた。

IV. 総合考察

1 「導入の模擬保育」について

「保育実習Ⅱ」における責任実習での導入の体験から、学生は活動への導入が主体的な幼児の遊びを展開するために、重要な役割を果たしていることに気付いている。このことについては、「実習に事前・事後指導に関する研究（Ⅶ）」での結果からも推察される。また、学生にとって、「保育実習Ⅱ」の責任実習における幼児の反応、困難に感じたことや課題等について振り返る中で、「活動への導入」についての意識はより高まったものと考えられる。

更に、「表現Ⅱ」に授業における「導入の模擬保育」の取り組み、発表を経験することで、「保育活動」・「幼児の遊び」の捉え方、保育者の関わり、役割等、これらを「導入」の視点から見つめ、より明確にみることができるようになったと考えられる。

幼児の興味、関心、楽しさ、イメージを引き出さなければ、主体的な幼児の遊びを展開することはできない。幼児が主体的・意欲的に自由にイメージを膨らませ、遊びの世界を楽しむことができた時、それは保育者にとっても幼児と遊びの世界を共有する時間となる。

そのためにどの様にしていくことが必要なのか、「導入の模擬保育」の実践及び記録を通して、学生の学びを探っていく。

(1) 導入の問題

「導入の保育で難しかった点」の中の「言葉遣い」については、予想外の幼児の反応に対応できず戸惑ってしまい、臨機応変な対応の難しさを訴えている。また、わかりやすく説明するためには、説明する内容の理解を深める等、事前に取り組むべき課題について認識始めた様子も見られた。

授業記録を振り返ってみると、これまで漠然とどの

ように話したらよいかわからないと感じて、そのまま模擬保育に取り組んでいた学生が、自分や他の学生の発表・参加体験を通して、言葉遣いについて不安に思っていた事柄が、少しずつ見えてきている様子が見られた。

「見本提示」の仕方については、学生は幼児の興味を引き付けるための提示仕方、教材をさらに発展させて提示する仕方、提示する側の表現力を高める課題等を、困難な内容として捉えている。このように、見本の提示については、困難と思えることが次の課題の発見に繋がり、事前学習の準備となっている。

「活動の進め方・展開」についてみると、活動のアイデアや活動の発展のための工夫についての取り組み方が分からず、悩んでいる様子が見られる。しかし、学生によっては、自分で新たな課題を見つけ出している様子も見られた。

このように、「活動の進め方・展開」については、「できない」・「わからない」・「難しい」という段階の学生と、さらに新しい取り組みに気付く学生が見られる。

「幼児への対応」については、幼児の行動に対して臨機応変に受け止めて対応することの難しさや、幼児の理解に合わせて対応していく難しさを感じていることがうかがえる。さらに「自信を持って関わることができなかった」・「全体を見ることができなかった」・「自然なかかわりができなかった」等、自分自身の関わり方の問題に気付いている様子も見られた。

「活動に期待を持たせる導入に関するもの」については、「活動に興味を持たせるための工夫が必要である」と気付いている。また、幼児とのかかわりの経験が不十分な学生にとっては、活動に興味を持たせるための具体的な方法がイメージできないと思われる。

(2) 導入の課題

「話し方」では、興味の引き付け方や言葉掛け等、他の学生の発表における優れた点を認識し、そのことにより具体的にどう話せば幼児に伝わり、興味関心を引き出すことが出来るか、導入の模擬保育試験が「話し方」の事前学習する機会になっている。

「保育教材」では、一つの素材に様々な可能性がありあることに付き、「保育教材」の使い方・活用・工夫に対する様々な視点を持ち始めている。

また、手遊びを用いた導入については、事前に授業で取り上げてきた内容の「手遊びの展開」を保育教材として活用している。

このように、「保育教材」について、素材の様々な使い方・視点・工夫により、同じ素材が魅力的に変化

し、保育実践において活用されていく事例を体験できたようである。

「動きの表現」では、動きのダイナミックさや生き物の特徴を捉えた動きの表現等、動きの表現の持つ力を実感し、体で表現することの大切さに気付いてきている様子が見られる。

さらに、実際に目の前で学生が動きの表現を用いて導入を提示したことにより、「動きの表現」の持つ働きや、幼児にとって大切な関わりを引き出すきっかけになることに気付く機会になったと思われる。

「引き付け方」では、保育教材・見本の提示の仕方・表現方法等、他の学生の発表を見ることで、引き付け方の具体的な方法、実践について体験し、より明確に事前の取り組みや準備に向かう動機付けになっていると思われる。

「幼児への対応」では、幼児の立場に自分を置いて他の学生の発表を客観的に見ることができ、以前には気付かなかった「自分が幼児だったら」という視点を認識して活動を振り返っている様子が見られる。「幼児のペース」・「雰囲気」・「幼児になって発表をみる」・「幼児の声や行動を受止めながら活動」というように、幼児との「行為のやりとり」や「場の雰囲気作りにおける関わり」等と、より積極的に幼児との対応について考えを深めていこうとしている様子が伺える。

最後に「事前準備」では、課題として、事前準備として導入の大切さに気づき、また、自分自身の関わり方や表現し方の取り組みについて重要性を認識し始めている。このように、他の学生の優れた発表や関わり方の視点を知り、参考にしながら事前学習に取り組もうとする姿勢が感じられる。

以上から、事前学習としての「導入の模擬保育」は、学生にとって、実習の事前学習に取り組むための準備と課題認識の上に有意義な働きになったと思われる。

2. 「教育実習Ⅱ」における責任実習の導入について

学生は「保育実習Ⅱ」の責任実習の導入の体験・振り返りを踏まえ、導入の模擬保育」を体験することにより、「教育実習Ⅱ」における責任実習の導入について、より意識した取り組みが行われていくものと推察される。

(1)各テーマにおける具体的な活動内容の多様化

「保育実習Ⅱ」、「教育実習Ⅱ」とも責任実習の対象児は、4・5歳児が多く、テーマも制作活動が多い傾向が見られた。しかし、具体的な活動内容をみると、

「保育実習Ⅱ」では、回答数90の内、「制作」の種類が12であったものが14に、また「集団遊び」については、

8から15へ増えている。これは、「保育所実習Ⅱ」では、授業内容をそのまま責任実習の内容とするものや同じ内容で行うものが多く見られたが、「教育実習Ⅱ」では、対象児の発達や体験の状況など様々なことを考慮し、学生自身が責任実習の活動内容を考えて行っている結果と推察される。

(2)多様で創造的な導入方法と進め方の工夫

導入の方法については「活動に関する話」「見本や作品の提示」「クイズ」が多くなり、幼児に問いかけたり、コミュニケーションしながら導入を行っている。

「保育実習Ⅱ」の責任実習の導入では、同じ「見本や作品の提示」「活動に関連する話」、「絵本・紙芝居を読む」でも、既製のものを活用し、内容や進め方も単純なものが多くみられた。一方、「教育実習Ⅱ」では、幼児の興味やイメージの世界を広げ、意欲を引き出すために、学生自身が創作した話やキャラクター、手紙など、より活動に合わせた創造的な内容を準備し、またいくつかの方法を組み合わせ導入を行っている。

これは、幼児の意欲や興味を引き出すため、またスムーズに活動が展開できるようにするために、子どもの反応や声を聞き取り、共に楽しみながらストーリーや活動を作り上げていこうとする意識が学生の中により明確になってきた結果によるものと推察される。

進め方においても、幼児の反応を予測し、興味を引き出すためにメリハリをつけた声の大きさ、声色の変化、様々な見立てや興味を引く提示、イメージを膨らませながら活動へと進めていくこと等、状況や目的に合わせた多様な工夫を行うことができています。

(3)困難に感じたことと課題の変化

「保育実習Ⅱ」では、5割を超えた「集中」が「教育実習Ⅱ」では、1.5割と3分の1以下に減っている。これは、実習の経験を重ねたことで、自分自身ある程度余裕を持って幼児の前に立つことができ、手遊びや話し等で幼児を集中させることができた結果と思われる。一方、「幼児への対応」、「活動への展開」が多くなったのは、導入の方法として多く挙げられていた「活動に関する話」や「クイズ」等、幼児に問いかけ、声を聞き取りながら進めることが多くなり、即座に対応しなければならない場面が多く、困難に感じたものと思われる。

課題について「保育実習Ⅱ」では、4割弱が「話し方」、2割が「幼児への対応」「事前準備」となっており、学生は初めての責任実習で、どのように幼児を集中させ、活動の導入でどのような話、声かけをすれば良いのかの戸惑いが見られた。しかし、「教育実習

Ⅱ」では、導入について、より積極的に幼児の興味関心を引き付け、幼児とのコミュニケーションを図りながら活動を展開していかうとした結果、「興味の引き方」、「幼児への対応」が多くなってきているものと推察される。

このように、「教育実習Ⅱ」では、幼児への理解が進み、また幼児の遊びと保育活動、保育者の役割、そのためにどのようにしていけば良いのかについて深く考えることができています。その結果、幼児の反応や自分の保育実践について深く省察することができ、困難に思えることや課題についても変化してきたものと思われる。

(4)保育活動における導入の重要性

「保育活動への導入」という視点から「保育実習Ⅱ」と「導入の模擬保育」及び「教育実習Ⅱ」における学生の保育の捉え方の変化をみると、保育活動、幼児の遊び、保育者の役割等を考える上で「導入」について考え実践することで明らかになってくるもの、あるいは「導入」を通して見えてくるものが多いことに気づかされる。

保育への「導入」を考えることで、幼児の理解や関わり、幼児の遊び、保育活動の内容や展開、保育者の表現体として、人的環境として、支援者としての役割などについての認識や理解が深まり、実習内容の質の変化などを見て取ることができる。

それは、幼児の遊びが幼児自身の中に生まれてくる主体的な活動であること、そして、それを援助する役割が保育者には求められるからである。そのため、幼児の遊び、保育活動に係る様々なことへと必然的に意識や学びが拡大していくものと考えられる。

この意味で「導入」という視点は、幼児の保育を考える上で重要なものと考えられる。

3. 「導入の模擬保育」の教育実習Ⅱ・Ⅲにおける活用について

「導入の模擬保育」の実習での活用は、約7割の学生が「活用できなかった」と回答しており、園の事情や時期、対象児や主活動の内容によって、そのままの形で活かすことは困難な状況が窺える。

一方、3割の学生は、責任実習をはじめ、部分実習、自由遊び、絵本の読み聞かせにおいて、手遊びや保育教材、声かけや進め方等、導入の模擬保育での実践内容を活かすことができたと回答している。これは、模擬保育と保育実践との比較の中で、各自の模擬保育の内容や方法の検証及び対象の違いによる課題等の発見に繋がっていったものと思われる。

また、「活かせた」と回答した学生は3割と少なかったが、実習の事前学習として「導入の模擬保育」が役立ったかについての問いには、「役立った」が、62件（67%）で約7割と多くなっている。「導入の模擬保育」において、対象児や年齢に適したテーマや内容を設定し、幼児の姿を想定しながら導入を考え発表することにより、自分自身の活動を振り返ることができ、同時に他の学生の発表を見ることにより、話し方や教材の提示の仕方、興味の引き方、集中のさせ方、表現方法等、多様な導入の方法、進め方、工夫等を学ぶことができたものと思われる。その結果、幼児の興味や関心を引き出し、イメージを広げ、創造的で主体的な遊びへと展開していくために、保育活動における導入が果たす役割や意味についての気付きが促されたものと考えられる。また、保育活動における「導入」を考えることを通して、幼児の遊び、保育活動、進め方について、またそれらのことを展開していくために求められることについての知識や理解も深まったものと推察される。

V. まとめ

1. 「導入の模擬保育」活動の体験は、保育実践における「言葉遣い」・「見本の提示」・「幼児への対応」・「活動の進め方・展開」等、導入の問題をより具体的に捉え、実習に取り組むための事前学習の動機付けになったと思われる。
2. 「導入の模擬保育」の取り組みにより、学生は導入の大切さや保育実践における自分自身の関わり方・保育者としての「表現の取り組み」の課題認識を深めてきている。
3. 他の学生の「導入の模擬保育」発表を観察することにより、幼児の立場に自分を置いて他の発表を客観的に見ることができ、以前には気付かなかった「自分が幼児だったら」という視点を認識して活動を振りかえることができたと思われる。
4. 教育実習Ⅱのアンケート調査結果と保育実習Ⅱの結果との比較において、下記の点について課題認識に対する気付きや深まりが見られた。
 - ・各テーマにおける具体的な活動内容の多様化
 - ・多様で創造的な導入方法と進め方の工夫
 - ・困難に感じたことと課題の変化
 - ・保育活動における導入の重要性
5. 今後の課題は、授業において、保育実践テーマや内容の選択・対象児への対応・保育者としての関わり・活動の進め方・展開等について、「導入」の視点から、創造的な保育実践の取り組みを探っていくことである。

註

問題と課題 その1—, 羽陽学園短期大学紀
要 第9巻第1号, 2011

註1) 齊藤葉子, 大木みどり「実習の事前・事後指導
に関する研究（Ⅶ）—責任実習における導入の

SUMMARY

Yoko SAITO,
Midori OOKI :

A Study on Pre and Post-Guidance for Practical Exercise (Ⅷ)
— The Problem and Subject in Introduction to Main Exercise —

The purpose of this study is to grasp the problem and subject in introduction to main exercise

We conducted a questionnaire on sophomore students to research the problem and subject in introduction to main exercise in “pre-school practical exerciseⅡ”.

Moreover, we compared the result in nursery practical exerciseⅡ”.

The results are as follows.

- 1) In pre-school practical exerciseⅡ in 2011, the nursing training for introduction to main exercise is useful for pre-Guidance in Practical exercise .
- 2) Comparing the result of the research on the problem and subject in introduction to main exercise in nursery practical exerciseⅡ with the result pre-school practical exerciseⅡ.

The results are as follows.

After the nursing training for introduction to main exercise, contents of the program on nursery practical exercise which are varied before the training.

The results lead up to that the nursing training for introduction to main exercise is useful for creative approach in nursery practical exercise.

(Uyo gakuen College)